

事前評価個表

| | |
|------|----|
| 整理番号 | 11 |
|------|----|

| | | | |
|---------|----------------------|--------|--------------------|
| 地域（地区）名 | ちくまがわじょうりゆう 千曲川上流 | 事業名 | 森林環境保全整備事業 |
| 計画策定主体 | 長野県 | 対象市町村 | こもろし 小諸市ほか14市町村 |
| 事業実施期間 | H31 ～ H35 （5年間） | 事業実施主体 | 県、市町村、森林組合、森林所有者等 |

| | |
|----------|--|
| 事業の概要・目的 | <p>本地区は、長野県東部に位置し、森林面積は175千ha（森林率71%）、うち民有林は117千ha（森林全体の67%）、うちカラマツを主体とする人工林は70千ha（人工林率61%）で、県下有数のカラマツ地域となっている。</p> <p>戦後の拡大造林等により、森林の齢級構成は高齢級に偏りがみられ、間伐の対象となるⅢ～ⅤⅡ齢級までの森林が、人工林の7割を占めていることから、早急に間伐を行なう必要がある。</p> <p>また、主伐期を迎えたⅤⅢ齢級以上の森林が、人工林の3割を占めていることから、木材の有効活用及び森林のもつ水源涵養や土砂流出防止等の公益的機能の高度発揮のため、適切な更新と確実な再造林が必要である。</p> <p>素材の流通は、東信木材センター協同組合連合会の原木市場を供給拠点とし、カラマツを中心に県内外へ販売を行なっており、カラマツ材の需要拡大と共に、更なる素材生産が求められている。また、東御市で本計画期間内に木質バイオマス発電施設が建設される予定があり、未利用材や松くい虫被害材の有効活用が検討されている。</p> <p>本地区では、県内平均(36%)を上回る間伐材の搬出率(48%)、高性能林業機械の保有台数の増加、雇用日数の増加等、森林整備に必要な作業体系の確立に向けた取組がなされているが、カラマツ材の需要拡大に伴い、近年は主伐が増加していることから、低コストかつ確実な再造林が必要となっている。</p> <p>また、路網については、林道密度が10m/ha、県計画に対する進捗率は72%と、県内で一番林道密度が高い地域となっているが、素材生産量の拡大に向けて、既設林道を活用した森林作業道の整備が必要となっている。</p> <p>本事業では、このような課題に対応するため、人工造林や搬出間伐を主体とする森林整備を実施する。</p> |
| 事業内容・事業費 | <p>森林整備：9,750ha 人工造林、下刈、枝打ち、保育間伐、間伐等</p> <p>総事業費：5,092,886千円（税抜き 4,715,635千円）</p> |
| 費用便益分析結果 | <p>B/C=5.92 （総便益（B）=36,723,302千円、総費用（C）=6,202,745千円）</p> |
| 評価結果 | <p>必要性：森林のもつ水源涵養や土砂流出防止等の公益的機能の高度発揮のため、適切な再造林等の森林整備が求められており、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性：費用便益分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林施業を効率的に推進し、森林資源の循環利用を図るための事業であり、有効性が認められる。</p> |

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

都道府県名: 長野県

地域(地区)名: 千曲川上流^{ちくまがわじょうりゅう}

(単位: 千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|--|------------|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 9,856,308 | |
| | 流域貯水便益 | 2,599,795 | |
| | 水質浄化便益 | 5,798,721 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 10,410,713 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 4,844,240 | |
| 木材生産等便益 | 木材生産確保・増進便益 | 3,213,525 | |
| 総 便 益 (B) | | 36,723,302 | |
| 総 費 用 (C) | | 6,202,745 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{36,723,302}{6,202,745} = 5.92$ | | |

森林環境保全整備事業 千曲川上流流域（長野県） 概要図

